

# 中古文学会 2023 年度秋季大会 開催案内

## 【重要】 会員のみなさまへ

2023 年度中古文学会秋季大会の開催形態につきましては、常任委員会において協議した結果、下記のようにすることといたしましたので、お知らせ申し上げます。ご了承の上、ご参加いただきたくお願い申し上げます。

### 記

- (1) 秋季大会は、全プログラムを対面にて開催しますが、参加には事前申し込みが必要です。
- (2) 現地参加が困難な方々のことも勘案し、シンポジウム・研究発表等を録画しまして、大会日程終了後、事前申し込みをされた会員に限って視聴できるようにします(学会ポータルデスクの協力を得て録画いたしますが、画質・音質等の保証はできません。また、研究発表については録音のみの場合もあります)。なお、視聴後に質問等を行うことはできません。
- (3) 1 日目に懇親会(コロナ禍以前と同様の立食スタイル)を開催します。参加を希望される方は、同封の振込票によって事前申し込みを行ってください(当日の申し込みはできません)。懇親会費は、一般会員 8,000 円、学生会員 4,000 円です。懇親会の形態については今後の状況によって変更となる場合があります。また、振り込まれた懇親会費は、懇親会が中止となった場合以外は返金できませんのでご了承ください。
- (4) 2 日目の昼食(お弁当)の販売を行います。希望される場合は、同封の振込票によって申し込みを行ってください(当日の申し込みはできません)。昼食代(お茶付)は、1,000 円です。休憩室での飲料等の提供は行いませんので、必要に応じて各自でご用意ください。
- (5) 現地参加、録画視聴のいずれの場合でも、同封の振込票によって必ず事前申し込みを行ってください。いずれも大会参加費(資料集代を含む)は 1,000 円です。なお、「資料集」の PDF による配付は行いません。
- (6) 事前申し込みの方には、現地参加、録画視聴にかかわらず、大会の前(10 月上旬を予定)に「資料集」と「録画視聴の案内」を郵送します。現地参加の方は、「資料集」を会場に持参してください。また、録画視聴の方は、大会日程終了後に「録画視聴の案内」にしたがって視聴してください。
- (7) 今後の感染拡大などの状況によっては、大会の全プログラムを遠隔開催とすることもありえます。開催形態を変更する場合は、10 月上旬までに学会公式サイトに掲載します。
- (8) 会員外の方も、学会 HP からの事前申し込みによって現地参加ができることとします(ただし、懇親会参加、昼食の注文、録画視聴は不可)。大会参加費(1,000 円)については、当日の受付にて現金でお支払いいただきます(釣銭の必要がないようにご配慮ください)。なお、1 日目のシンポジウムにかぎり、一般市民向けに公開する予定です。

そのほか、最新情報は学会公式サイトを通じてお知らせします。本件に関する事務局・会場校への個別の問い合わせは、お控えくださるようお願い申し上げます。 中古文学会事務局

中古文学会公式サイト <https://chukobungakukai.org/>

## 大会日程・大会会場

大会日程	10月14日(土) 13:00~17:00 (受付) 12:30 受付開始 中古文学会賞授賞式、シンポジウム (17:30より 懇親会) 10月15日(日) 10:10~15:05 (受付) 9:40 受付開始 研究発表会(午前)、委員会、研究発表会(午後)
大会会場	<b>龍谷大学 大宮キャンパス 東翼</b> 〒600-8268 京都府京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1
懇親会会場	<b>龍谷大学 大宮キャンパス 清和館</b>

## 大会参加要領

- 1. 大会参加費**
  - ・参加費(資料集代を含む)：現地参加、録画視聴いずれも1,000円
  - ・懇親会：一般会員8,000円、学生会員4,000円
  - ・昼食代(2日目)：1,000円  
※入金された参加費の自己都合による返金、または他の参加者への付け替えなどには応じられません。  
※領収書は、振込受領証に替えることとし、別途発行することはありません。
- 2. 申込方法**
  - ・同封の振込票による入金をもって申し込みを承ります。必要事項をご記入の上、上記の額をご入金ください。
  - ・加入者名 中古文学会大会実行委員会
  - ・口座番号 00240-3-99727
- 3. 会員外の方の申込方法**
  - ・学会公式サイトより申し込み締切までにお申し込みください。
  - ・申し込み時にご記入いただいた個人情報は、本大会の運営管理にのみ使用させていただきます。
  - ・参加費(1,000円)は当日会場受付にて現金でお支払いください(釣銭の必要がないようにご配慮ください)。
- 4. 申込締切** **2023年9月15日(金)** ※締切後の申し込みは承ることができません。  
※締切後の入金は固くお断りいたします。
- 5. 住所・所属等の変更**
  - ・住所・所属等の変更は、学会公式サイトの「会員ページ」をご利用ください。  
同封の振込票に記載されても、変更について承ることができません。
- 6. 学会費の納入**
  - ・同封の振込票は【**大会参加費専用**】です。学会費は納入できません。また、大会会場での学会費納入は受け付けません。
- 7. 出張依頼状**
  - ・氏名・職名・提出先(所属長名)を明記の上、ポータルデスクへメールでお申し込みください。
- 8. 会場について**
  - ・「卒煙支援ブース」を除き、キャンパス内は全面禁煙です。
  - ・駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。
  - ・大会期間中、学内食堂は営業していません。会場周辺にコンビニエンスストアがあります。また、飲食店もいくつかあります。定休日にご注意ください。

9. 宿泊について ・ 観光シーズンのため、各自で早めにご予約ください。
10. 交流広場  
(フリースペース)
- ・以下の要領で交流広場を開設します。研究者相互の交流・情報交換の場としてご活用ください。
  - 用途**：博士論文要旨・論文抜刷・研究プロジェクト報告書等の展示や配布、研究会・学会等の紹介、会誌等の展示や配布・販売など。
  - 資格**：本学会員に限る。団体の場合は、本学会員が代表者であること。
  - 申込**：氏名（団体の場合は団体名および代表者名）・連絡先の住所・電話番号・メールアドレス・展示物等の内容について、9月15日（金）までに大会実行委員会へメールでお申し込みください。
  - 注意**：スペースに限りがあるため、申し込み先着順で受け付けます。広場には、机と椅子を用意します。それ以外の対応はしません。当日は、受付で利用手続きをしてください。交流広場は大会開催中開場します。利用時間は任意です。出品物の持ち込み、管理は各自で行い、終了後はすべて持ち帰ってください。
11. 臨時託児室
- ・以下の要領で臨時託児室を開設します。
  - 日時**：10月14日（土）12:30～17:30、15日（日）9:40～15:10
  - 対象**：生後8週間を経過した乳児から小学6年生までの児童
  - 運営**：(株)パソナフォスターが全国保育サービス協会の基準に基づいて運営します。同社は、龍谷大学が託児業務を委託している業者で、万が一の事故等に備えて全国保育サービス業総合保障制度に加入しています。
  - 料金**：1人につき、保育時間30分あたり250円（学内基準を準用）。
  - 申込**：保育対象者の人数・年齢・利用日および時間帯を明記し、9月15日（金）までに大会実行委員会へメールでお申し込みください。折り返し、詳細な手続き等をご案内します。
12. 問い合わせ先
- ・大会全般に関すること  
中古文学会事務局  
〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1  
早稲田大学文学学術院 陣野英則研究室内  
E-mail：info@chukobungakukai.org
  - ・参加申込、参加費納入、出張依頼状に関すること  
中古文学会ポータルデスク  
〒111-0041 東京都台東区元浅草2-10-11 吉延ビル4F 株式会社新典社内  
E-mail：info@chukobungakukai.org
  - ・会場、交流広場に関すること  
中古文学会大会実行委員会  
〒600-8268 京都府京都市七条通大宮東入大工町125-1  
龍谷大学文学部 安藤徹研究室内  
E-mail：tando@let.ryukoku.ac.jp

## 大会プログラム

会 場 龍谷大学 大宮キャンパス

【シンポジウム・研究発表会】 東翼 1階 101 教室

【休憩室】 東翼 3階 301・302 教室

\*第1日は、301 教室にライブ映像を配信する場合あり。

【委員会】 東翼 3階 303 教室

【書籍販売】 東翼 2階 201・202・203 教室

【交流広場】 東翼 1階 ロビー

【臨時託児室】 東翼 2階 204 教室

懇親会会場 龍谷大学 大宮キャンパス 清和館 2階 談話室

第1日 10月14日(土)

12:30	受付開始	
13:00-13:05	開会の辞	龍谷大学学長 入澤 崇
13:05-13:20	中古文学会賞授賞式	
13:20-17:00	シンポジウム「〈紫式部〉研究の今とこれから」	
	趣意説明	京都先端科学大学 山本淳子
	〔基調報告①〕歴史学からみた『源氏物語』	
		京都大学 上島 享
	〔基調報告②〕女房装束における〈禁色〉——『紫式部日記』の視点——	
		聖徳大学 諸井彩子
	〔基調報告③〕『源氏物語』桐壺更衣の準抛の意味——紫式部の視点から——	
		京都先端科学大学 山本淳子
	〔基調報告④〕源氏物語の歴史性——〈紫式部〉にどう立ち向かうか——	
		椋山女学園大学 高橋麻織
	……休憩 (15:10-15:40) ……	
	パネリストの討議、フロアとの質疑応答	〈司会〉山本淳子
17:30-19:30	懇親会	

第2日 10月15日(日)

9:40	<b>受付開始</b>	
10:10-11:30	<b>研究発表会(午前)</b>	
	[研究発表①]	
	『拾遺抄』と円融院	早稲田大学[院] 御手洗靖大
	[研究発表②]	
	『紫式部日記絵詞』人物注記の方法——日記承継者は幼少女性親族か——	桃源文庫 上原作和
	……休憩(11:30-12:40)・委員会(11:40-12:10)……	
12:40-15:00	<b>研究発表会(午後)</b>	
	[研究発表③]	
	『源氏物語』玉鬘卷の八幡と観音——信仰の性格の違いによる流離展開——	横浜隼人中学・高等学校[非] 浜田賢一
	[研究発表④]	
	宮内庁書陵部蔵「三条西家本源氏物語」の伝称筆者と本文	
	——岩山道堅筆本を中心に——	総合研究大学院大学[院] 瀧山 嵐
	……休憩(14:00-14:20)……	
	[研究発表⑤]	
	『安元御賀記』と藤原定家	相愛大学[名] 鈴木徳男
15:00-15:05	<b>閉会の辞</b>	中古文学会代表委員 陣野英則

※中古文学会秋季大会の開催を記念して、龍谷大学大宮キャンパス本館において「龍谷大学大宮図書館2023年度特別展観〈紫式部〉の物語」(10月12日(木)～19日(木))を開催します。大会期間中のみ、国宝『類聚古集』も特別展示します。

※10月13日(金)～15日(日)にかぎり、大会参加の会員は龍谷大学 龍谷ミュージアム(<https://museum.ryukoku.ac.jp/>)の2023年度秋季特別展「みちのく いとしい仏たち」(9月16日(土)～11月19日(日)、一般入館料1,600円)を無料でご観覧いただけます。

趣意説明

京都先端科学大学 山本淳子

〔基調報告①〕歴史学からみた『源氏物語』

京都大学

上島 享

〔基調報告②〕女房装束における〈禁色〉——『紫式部日記』の視点——

聖徳大学

諸井彩子

〔基調報告③〕『源氏物語』桐壺更衣の準抛の意味 ——紫式部の視点から——

京都先端科学大学

山本淳子

〔基調報告④〕源氏物語の歴史性 ——〈紫式部〉にどう立ち向かうか——

梶山女学園大学

高橋麻織

パネリストの討議、フロアとの質疑応答

〈司会〉山本淳子

## 【趣意】

「世」を生きた〈紫式部〉について考えてみたい。〈紫式部〉は、「たったひとりの世の中」を生きていたのではない。彼女を一人の構成員とする平安中期貴族社会の、巨視的には歴史、微視的には個々の経緯の結果、様々な事情を背負った人々の織りなした人間関係のなかで、生き、作品を生みだしていた。

もちろん、そのことは夙に紫式部研究のテーマの一つとされていた。が、「受領の女」などの階級論が主流となり、結果として歴史思想のなかに作者が絡めとられる傾向もあった。テキスト論の観点からは、作者論そのものが疑問視されたこともあった。それらの論はやがてすべて「常識」として研究史に吸収され、研究は新たな局面に入った。

平安時代についての歴史学研究の成果がはるかに豊かになり、史料も理解しやすい形で提供されている今、私たちは千年前の貴族社会をよりリアルに想像・構築することが可能となった。そんな中で、『源氏物語』という巨大な物語作品を「世」に問い続けた〈紫式部〉という存在について、国文学研究における現在の研究成果の到達点を確認し、これからの研究の行先を模索することは、意義があるだろう。なお、『源氏物語』を創作したのは個人ではなくプロジェクトチームであったとの考え方もあり、その観点から〈紫式部〉と山括弧を施した。だがこの括弧も、いわゆる作者、いわゆる女房など、多様な観点から捉えていただいて構わない。

包み隠さず言えば、今回のテーマ設定は、2024年のNHK大河ドラマが紫式部を主人公とすると決定したことを契機としている。だが、これは決してメディアへの追随ではない。

学界も社会の中であり、メディアによる大規模な潮流に対して孤高を守ることは困難である。むしろその潮流に巻き込まれる前に、アカデミズムの今を確認しておきたい。一般社会との、学識と教養をめぐる対峙という点では、多かれ少なかれ私たち平安文学研究者一人一人が、千年前の〈紫式部〉と同様の体験をする可能性があるだろう。「世」は、私たちの前にもある。

(山本淳子)

〔基調報告①〕

歴史学からみた『源氏物語』

京都大学 上島 享

近代になり国文学と国史学が成立して以降、両者の交流は徐々に疎遠になっていった。だが、例えば平安中後期においては、主に貴族社会（さらには貴族社会と密接に関わる寺院社会）の中で、物語や説話・和歌といった文学作品ができ、記録と文書などの歴史史料が生成された。もちろん、文学と歴史学では方法論は大きく異なるが、それぞれの立場から統合的に捉える視座も必要だろう。本報告では、『源氏物語』のテキストの背後にある時代や社会の状況に関する検討に主眼を置くとともに、記録や文書のみならず文学作品をも含み込んだ文献史料論を考えてみたい。

〔基調報告②〕

女房装束における〈禁色〉——『紫式部日記』の視点——

聖徳大学 諸井彩子

摂関期の貴族社会には、〈禁色〉という厳格な服飾規制があり、女房装束においては色や織物に関する三段階の禁制があったことが先行研究で指摘されている。本報告では、『紫式部日記』の「色ゆるさる」という表現を中心に服飾規制に関する場面をとりあげ、彰子に仕える女房集団内の序列について、〈禁色〉の面から考察する。服飾に関する時代背景、紫式部の立場について改めて示した上で、規制の中でそれぞれの工夫を凝らす女房たちの姿を肯定的に捉える視点は、『源氏物語』で示される服飾哲学ともいうべき思想とのつながりを有していることを明らかにしていきたい。

〔基調報告③〕

『源氏物語』桐壺更衣の準抛の意味 ——紫式部の視点から——

京都先端科学大学 山本淳子

『源氏物語』の桐壺更衣の在り方は実在の中宮定子によく似ており、前者は後者に基づいて書かれたという見方が、既に1990年代には提出されていた。発表者もそれに追随した

が、当初は作者が現実社会の激動に感応し無意図的に行ったと考えていた。しかしその後、定子没後の貴族社会が彼女の鎮魂を必要としていたこと、『枕草子』が同時代社会に受け入れられたことに鑑み、社会の側に定子を描く作品へのニーズがあったことを考えた。では作者にとって、この準拠の意味は、権力者への追従以外のどこにあったのか。作者が社会と切り結んだ実態を考えた。

〔基調報告④〕

源氏物語の歴史性 ―― 〈紫式部〉にどう立ち向かうか――

梶山女学園大学 高橋麻織

『源氏物語』の歴史性は、準拠論を中心として進められてきた。現在、歴史学をはじめ隣接諸学の研究成果を受けて、物語を作品論の立場から読み解く研究は多岐に渡る。「準拠」という用語は、『源氏物語』の歴史性を作者〈紫式部〉の方法に限定する呪縛となっていたように思う。『源氏物語』と史実との共通点・相違点、『源氏物語』から歴史物語への影響、古注釈による歴史的事象の指摘など、さまざまな切り口がある。ここでは、古注釈が『源氏物語』成立期以降の史実と『栄花物語』を掲げることに着目し、〈紫式部〉の生み出した『源氏物語』の歴史性という問題に立ち向かいたい。



〔研究発表①〕

## 『拾遺抄』と円融院

早稲田大学〔院〕 御手洗靖大

本発表は、『拾遺抄』雑上巻頭の円融院御製をとりあげる。雑上の前半は四季歌群となっており、賀、羈旅、恋、と歌群が続き、物名の「四十九日」で巻軸となる。いわば雑上は、円融院御製を巻頭、菩提を弔う「四十九日」を隠した物名を巻軸に据え、その間に勅撰集の再現のような歌群を配する。『拾遺和歌集』に増補される時、この配列によって雑春・雑秋が置かれたかと思われるが、没後に成ったとされる『拾遺抄』雑の巻頭に、当代の一条天皇の父帝である円融院御製を置く点を特に問題としたい。『中務集』や『能宣集』などで確認できる円融の撰集事業とも関わらせてこれを考える。

円融の撰集事業は、退位によって挫折したとされ、顧みられてこなかった。しかし、近年、古代史の分野では、皇統の確立に積極的であったとして、円融の天皇像が再検討されつつあることをふまえるならば、勅撰集の用意があったと仮定してみることは意義があることのように考える。『拾遺抄』の成立にも関わる問題として考察を試みたい。

〔研究発表②〕

## 『紫式部日記絵詞』人物注記の方法 ——日記承継者は幼少女性親族か——

桃源文庫 上原作和

現存『紫式部日記絵巻』は、その絵柄から複数の絵師に分担制作されたことが推定される。ただし、絵詞本文は同一宗本(アーキタイプ)を転写したものと思われ、その日記絵本文は、黒川本、松平文庫本を凌ぐ古態性を有することから、異同がある場合はこれを以て校訂されている。現存絵詞本文には、産養五日目の「髪上げたる女房」八人の割注(分注)は現存日記本文にも踏襲されるが、九月十三日条「右衛門督<大夫齐信>、源中納言<権大夫俊賢>、宰相<権亮実成>」、十六日「左宰相中将<経房>、殿の中将<教通>、右宰相中将<兼隆>」、十一月一日条「右大将<実資>」は絵詞本文にのみ見られる注記である。紫式部の同僚女房「四十余人」の内でも、序列の高い女官、女房ではなく、産養に奉仕する特定の職掌、及び舟楽乗船者等の特定人物に限定され、父の官職と名が注記される。一方、男性官人は兼官職と実名注記で、寛弘の四納言の公任・行成にはない。この注記は何を意味するのか。少なくとも、共有すべき情報が選別されていることは自明である。この読者圏を検討すると、敦成生誕儀礼を統括する道長がまず除外され、五節舞姫貢進者等、晴儀に参加する者と記主・紫式部との親疎性を規準として、読者に特定人物の認知を促していることが判明する。すなわち、その承継者は記主・紫式部の幼少女性親族である。この仮説について、古記録等の周辺史料を援用しつつ、挙証したいと考えている。

〔研究発表③〕

『源氏物語』玉鬘巻の八幡と観音 ——信仰の性格の違いによる流離展開——

横浜隼人中学・高等学校〔非〕 浜田賢一

八幡の加護を受けて九州出奔を果たした玉鬘一行であったが、急遽、その躍進は閉塞する。悲願の父との接見は叶わず、平安京の場末・九条に停留してしまう。いったい、八幡の神風はなぜ失速したのであろうか。

それは信仰の性格によるのだろう。玉鬘一行は八幡に立ち寄りながらも新たな願掛けをなした様子はなく、代わって、長谷観音に父接見の願いを託さんとする。これらの神仏は性格が異なる。八幡神は源氏物語成立期以降に武神の性格を確立したとされるが、それ以前にもそれを思わせる史料が散見される。兵・大夫監や海賊の跋扈する海原から無事切り抜けるには武神の加護こそ求められよう。一方、長谷観音は経典史料だけでは計り知れない女性加護の性格があった。それは、今昔物語集の女性主人公の話群の規模から検討されている。が、それを再検討すると頼れる親がなく貧窮する話が半数以上を占めているのが分かる。それは玉鬘の状況に符合する。

思えば、八幡神は兵・大夫監とともに物語に姿を現し、彼は八幡の歌まで詠む。一方、それに「年を経て祈」ったと返歌する乳母の願いが、兵との対峙に真価を発揮した。なお、観音霊場は再会譚が散見される場でもあった。それを熟知した読者は右近との再会を想像させられる。「常のことにて」願った右近に観音が応じての再会であった。玉鬘の流離を促した信仰の力とは、玉鬘以外の人物の願いと重なり、彼女をあちこちへと流転させてやまないのだ。

〔研究発表④〕

宮内庁書陵部蔵「三条西家本源氏物語」の伝称筆者と本文 ——岩山道堅筆本を中心に——

総合研究大学院大学〔院〕 瀧山 嵐

宮内庁書陵部蔵「三条西家本源氏物語」（室町期写、五十四帖、以下「書陵部本」）は、三条西実隆（一四五五～一五三七）を中心に作成された寄合書きの『源氏物語』であり、かつて『日本古典文学大系』（岩波書店）の底本にも採用された伝本である。全帖に実隆の花押を有し、桐壺・夢浮橋巻には実隆の奥書が記される。

書陵部本の伝称筆者は、付属する『源氏物語名筆跡数』（内題に拠る）と畠山牛庵（二代）の極札により把握できる。牛庵の鑑定水準につき、改めて全帖の筆蹟を検討するに、真筆と認められる写本も一定数含まれる。

本発表では、実隆の周辺でおこなわれた寄合書き『源氏物語』の写本作成の実態を解明する手掛かりとして、幕府將軍足利義尚に近臣として仕えた武士で、出家後には実隆とも交流を深めた岩山道堅（俗名尚宗、生年未詳～一五三二）を筆者として伝える書陵部本明石巻と東京国立博物館蔵保坂本明石巻とを中心に取り上げる。両者の本文は、二字以上の

異同は極めて少なく概ね一致するため、共通する親本の存在を想定できる。だが一方で、書陵部本の独自本文や保坂本の異文注記も存するため、こうした相違箇所的位置付けが重要となる。

書陵部本の各巻を筆者毎に分析することで、実隆の周辺で作成された写本同士の接点と本文の享受圏とを明らかにし、さらに「三条西家本」と称される他の伝本群との関連の有無についても再考したい。

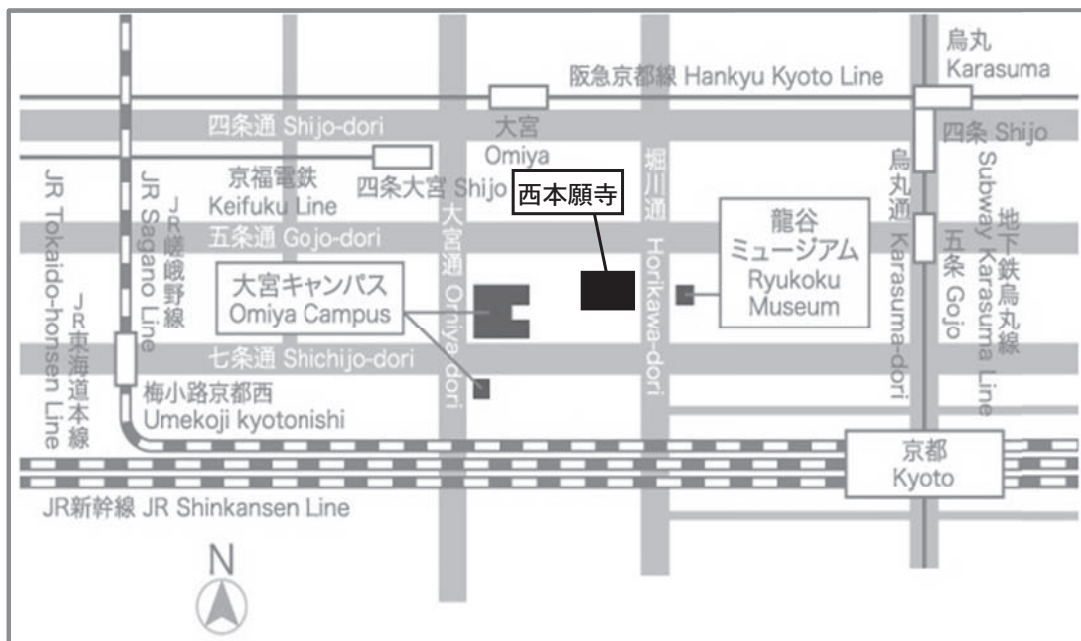
〔研究発表⑤〕

『安元御賀記』と藤原定家

相愛大学〔名〕 鈴木徳男

安元二年（一一七六）三月四日～六日に行われた高倉天皇主催による後白河上皇の算賀行事は、王朝文化の掉尾を飾る一大盛儀であった。『安元御賀記』は、その仮名による記録である。現行の諸本は、嘉禄・安貞・寛喜年間（一二二五～三二）ころの書写と考えられる定家監督書写本（徳川美術館所蔵、以下定家本）を祖としている。作者は四条隆房であるが、定家によってひろめられたと言えよう。異本関係にある群書類従本系統の本文も定家本を基に増補加筆されているとみられる。類従本の加筆についても、安元御賀と定家の関わりをみていくと、隆房や平家一門との関係だけでなく、平維盛の青海波をめぐる『源氏物語』や『建礼門院右京大夫集』の受容など、定家周辺の関与があるのではないかと推量される。類従本の増補における平家一門の捉え方には『平家物語』との近さが認められるので、改変のすべてを定家周辺に帰するのは多少の疑問が残るが、『安元御賀記』への定家の関心の深さを考えると、故実記録（定家本奥書「仮名日記」）から物語的な世界（類従本）への展開において、定家の存在は看過できないだろう。

## アクセスマップ



JR・近鉄・京都市営地下鉄「京都」駅下車、徒歩約10分（市バス約3分）

JR嵯峨野線「梅小路京都西」駅下車、徒歩約10分（市バス約2分）

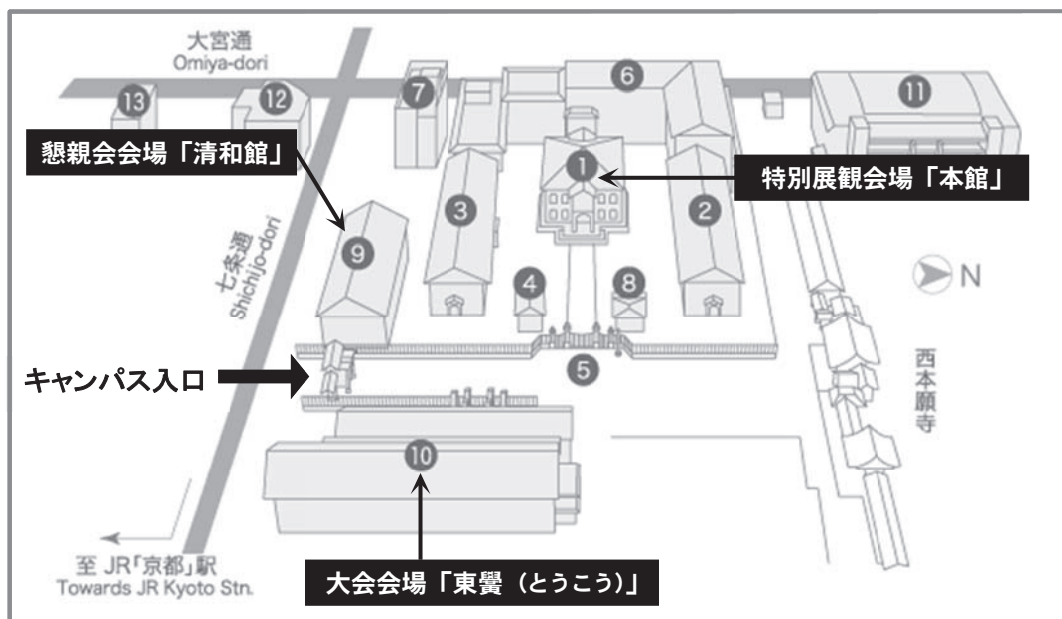
阪本線「七条」駅下車、徒歩約20分

阪急京都本線「大宮」駅下車、徒歩約20分（市バス約5分）

\*最寄りバス停：市バス「七条大宮・京都水族館前」

\*タクシー利用の場合は、行き先を「龍谷大学の宮キャンパス」または「七条大宮の龍谷大学」と指示してください。

## キャンパス案内図



⑤ 正門 ⑧ 守衛所 ⑪ 大宮図書館